

山行報告書

2月山行報告書 報告者 佐坂 茂美

山名	伊吹山		山行名	例会	
ルート	三ノ宮神社⇔表登山道⇔六合目（登頂組⇔山頂）⇒三ノ宮神社＝京田辺				
山行日	2018年2月24日		天候	晴れ／曇り	
参加者	リーダー：佐坂 サブリーダー：染矢 男性：小川、藤村、中田、下坂、山下（剛）、土岐 女性：徳田、秋山 合計：10名				
ルート概略図					
		コースタイム			
		地名	時：分	地名	時：分
三ノ宮神社	集	6:40	頂上	着	14:00
	発	8:40	頂上登頂組	発	15:00
1合目	通過	9:00	登頂組	着	15:50
			非難小屋	発	16:05
2合目	通過	9:20	2合目	着	17:00
				発	17:00
3合目	着	11:15	三ノ宮神社	着	18:05
			駐車場	発	18:20
5. 5合目 (6合目 避難小屋)	着	11:55	京田辺	着	20:15
	発	12:20		解散	

山行報告と反省

【準備段階：12月23日まで】

今回の「弥高尾根ルート」は地形図やエリアマップには記載されていないルートであり、ヤマレコ等の記録（軌跡）からルートを確定した。ルートとしては弥高尾根ルートのP897付近にある「分岐点」から直登するか西へトラバースし表登山道5合目を目指すかである。下見ではトラバースで表登山道ルートを行く事を決定し、12月23日に下見した。この時既に途中から積雪がありいわゆる「登山道」は雪の下。踏み跡や道標も殆ど無いルートは経験のある会員にとっては、それなりに楽しみを感じて頂けるルートと思われました。下見前に米原市役所商工観光課（伊吹庁舎）「伊吹山登山案内」を入手し弥高尾根ルートも記載されていたので参加者に配布しました。但しその中に「表登山道以外は道標等整備されていません。経験者向きのコースです」と記されていました。

そこで、アナログでの地形図とコンパスのセッティング、ITのスマホでルートを確認しながら結び付けたマーキングテープを振り返って見える距離、長さで結び付け藪漕ぎをしながらも表登山道へのルートを確認出来ました。

【本番：2月24日】

最初は12名の申込がありましたが、脚力



不安、難度不安（藪漕ぎ）の為2名からの参加取り消しのがあり、新人3名を含む10名の山行となりました。新人3名は脚力、体力は十分、下見の参加者1名、それ以外の会員もキャリア、体力もそこそこの会員でしたので安心しました。唯この伊吹山の6合目以上は斜度から「雪崩」の可能性もありそうと判断しており、数日前から日本気象協会の「天気予報」を確認して実施かキャンセルかを検討しておりました。そして諸事情から2月20日 予報を確認すると 天気：晴れ時々曇り（晴れ：9時—15時）、気温：（7℃—1℃）、降水確率：（30%（20%、9時—15時）、降水量：0mm、風：4m—5m/sec）という事で山行実施を決定しました。然しながら、「雪崩」の事が頭から離れず、24日早朝にも当日の予報を確認した処、気温も10℃弱と高め、降水確率も10%—20%と下がり、前日までの天候、入山者も多く踏み跡もしっかりとあり「雪崩」の心配は先ず大丈夫との判断をしました。

当初、ルートは下の3コースを予定しておりました。結論としては②のコースを歩く事にしました。

①弥高（平野神社）→神山地蔵→弥高寺跡→五合目分岐→表参道五合目→避難小屋→八合目→頂上→八合目→避難小屋→五合目→三合目→一合目→三ノ宮神社（下見ルート）

②三ノ宮神社⇔表登山道⇔六合目（行ける処まででピストン）

③三ノ宮神社→五合目分岐→史跡上平寺城後→伊吹神社→上平寺→三ノ宮神社

小屋までのルートは最初は雪解けのドロドロ道、積雪が始まった3合目手前、皆でアイゼンを装着しました。元々、参加資格に「アイゼントレ参加」を義務付けておりましたので、その効果があらわれたのか新入会員もスムーズにしっかりと装着出来ました。

避難小屋をピストンの折り返し場所としていましたが、1

2時前に小屋に到着し、目の前に伊吹山の頂上がハッキリと見渡せ、登山ルートも明確、天候よし、雪崩の危険も無し、往復時間も途中で合った下山者によれば2時間半から3時間との事で山頂を目指したい参加者も多くあり、希望者はリーダー経験豊富な会員、体力十分な会員、登山を学んでいる若手の為登頂を許可しました。小屋で待機中、小屋傍で雪山での支点構築の訓練をしているグループがありました。2月に体験した事でもあり見学させて頂き、その責任者と色々と雑談めいた話をしました。その方が「長野県山岳救助隊」で15年強活躍されていたことを知り色々と教わりました。

その時、山頂を目指したグループより緊急連絡が入り、頂上付近は「ホワイトアウト」状態で復路の取り付きが分からなく、避難小屋で待避しているとの事でした。自分の位置は避難小屋であり、地図上部にコンパスと磁北線の基準線が記載されている地図は渡してある。コンパスを使えばとりつきは分かると思ったが、ホワイトアウトの為避難小屋での待機を決めたようです。上述の長野県山岳救助隊の指導者のアドバイスも頂きながら、個々の対応指示をさせて頂きました。

そうこうする内にやがて、幸いにも風が和らぎ、青空も出てきたのとなにわ岳友クラブの人から悪天候のピークは過ぎたと聞き、登頂組も下山開始の報告を受け到着を待った。16時5分、全員が元気に小屋に到着した時は正直、心底安堵しました。そして「お帰り」の握手。合流後の下山は順調でしたが、薄暗くなり始め、凍った場所もあり滑りやすい為、ヘッドランプの明かりを頼りにゴールを目指しました。ゴールの三ノ宮神社の鳥居をくぐった時、「これで終わった」と振り返り思わず鳥居や山に深々と頭を下げました。

参加者の皆さん

ホワイトアウトで一苦労ありましたが、どうにか皆と一緒に下山出来た事を喜んでおります。

ヒヤリハット

・ホワイトアウト ・登頂組の役割不徹底 ・寒気による足ツリ

